

## 近畿病院図書室協議会第120回研修会

研修部

日時：2009年12月19日（土） 10:30～16:30  
場所：大阪ハイテクノロジー専門学校 PC ルーム  
テーマ：EBM と文献検索  
プログラム

1. ネットにない情報・知識・知恵の提供  
—レファレンスの現場から—  
大阪大学附属図書館生命科学分館  
諏訪敏幸 氏
2. 新しいPubMedのご紹介 —講義と演習—  
株式会社サンメディア  
リサーチソリューションズ  
データベースサーチグループ  
松村高雄 氏  
プロダクトレビュー：ProQuest のエビデン  
スツールのご紹介  
株式会社サンメディア e-Port  
藤田美穂 氏
3. スモールグループディスカッション  
—参加者交流—  
テーマ：相互協力活動の未来  
参加者数：34人

今回はより良いサービスを提供するためのスキルアップを目指して、病院図書館ではまだ十分にできていないレファレンス・サービスの実践を学ぶことにした。また、図書館業務には必須のPubMedがバージョンアップしたことを受けて、新しいPubMedを紹介していただいた。

大学図書館と病院図書館ではサービス内容が異なってくるのは利用者の層も違うことから致

し方ないが、病院図書館におけるレファレンス・サービスは充実しているとはいいがたい。しかし、利用者を必要としている資料に導くための支援は少なからず求められていることを感じている担当者は多いのではないだろうか。レファレンスの基本として、人的サービスであることをまず認識し、利用者にとって何が必要かを正確につかみ、図書館にしかできないサービスを提供する、またそのための仕掛けづくりを行う実践例は病院図書館でも必要なことではないかと思えた。利用者が知らないことのベスト5が紹介されたが、これは全く同じで、図書館担当者であることの専門性を発揮できる場面になると考える。最近インターネットで情報を入手するのが当たり前に行われているが、医学・看護研究、あるいは実践の場においては、文献検索を正しく行えるかどうかで得られる結果が変わってくる。利用者に向かい合うことで、より良いサービスができることを我々も行っていく必要がある。調査事例もたくさん紹介していただいた。

文献の世界はwebだけでは対応できないこと、図書館員は文献世界の専門家としての知識とスキルで利用者を「保助し指導する」ことができること、レファレンスは文献を求める利用者にとっての利益を提供し図書館への信頼を高める役割を果たしていることというまとめは、我々もスキルアップをし、必要とされる図書館員を目指すことの大切さを考える上で示唆に富むものであった。

2席目ではPubMedを使いこなすための講

義・演習を受けた。PubMedの概要と基本的な使い方について順を追って紹介していただいた。担当者が実際に代行検索を行っているところはあまりないと思うが、文献の入手にあたっての確認には必要なスキルである。また、利用者への検索方法の指導を行う場面も想定できるので、PubMedを使いこなせるようになりたいという担当者が多いことと思う。今回は演習の時間が十分とはいえなかったので、また機会を作って研修の場を持ちたい。

最後にグループワークディスカッションを行った。4班に分かれそれぞれ活発な意見交換が行われた。プレゼンテーションでは当協議会での協力活動についての提案、また期待することなどが発表された。研修部としては大きな励ましの言葉をいただいた思いである。いろいろいただいたご意見を参考に次年度の研修活動を行っていきたい。

(文責：林 伴子／社会保険神戸中央病院)